

2 動名詞

動名詞は、現在分詞の語尾 **-ns** を **-ndum** に変えて対格形を作ります (**amō** → **ama-ns** → **ama-ndum**)。第2変化中性名詞 **verbum** のように変化します。主格（呼格）を除いた単数のみで使われ、複数形はありません。

確認問題 次の動詞の指示された形を答えなさい。

1. **doceō** (教える) 属格
2. **agō** (行う) 与格
3. **eō** (行く) 対格
4. **cadō** (落ちる) 奪格
5. **scrībō** (書く) 属格

解答

1. **docendī** 教えることの
2. **agendō** 行うことに
3. **eundum** 行くことを
4. **cadendō** 落ちることによって
5. **scrībendī** 書くことの

※**eō** の動名詞は不規則で、**eundī** (属格)、**eundō** (与格)、**eundum** (対格)、**eundō** (奪格) である。

確認問題 括弧内の語を動名詞の適切な形に直しなさい。

1. **Multae sunt causae (bibō)**.
飲む理由はたくさんある。
2. **Ego relictīs rēbus Epidicum operam (quaerō) dabō. Pl.Ep.605**
私は万事後回しにし、エピディクスを探すことに全力を尽くそう。
3. **Breve tempus aetātis satis longum est ad bene honestēque (vīvō).**
Cic.Sen.19
生涯の僅かの時間でも、立派に気高く生きるには十分に長い。
4. **(Doceō) discimus.**

我々は教えることによって学ぶ。

5. *Fāma crescit (eō)*.

噂は進むにつれて大きくなる。

注

1. 属格。 *causae* にかかる。
2. 与格 (*dabō* の間接目的語)。*relictīs rēbus* は「絶対的奪格」。
3. 対格。 *ad* + 動名詞で「～するために」を意味する。
4. 奪格。
5. 奪格。

解答

1. *bibendī* 2. *quaerendō* 3. *vīvendum*
4. *Docendō* 5. *eundō*

練習問題 49

解答 p.314

括弧内の語を動名詞の適切な形に直しなさい。

1. *Casta ad virum mātrōna (pāreō) imperat. Syr.108*
貞潔な妻は夫に従うことによって (夫を) 支配する。
2. *Semper (metuō) sapiens vītāt malum.*
いつも恐れることによって賢者は不幸を避ける。
3. *Ego nullam aetātem ad (discō) arbitror immātūram.*
私はいかなる年齢も学ぶのに若すぎることはないと思う。
4. *Nihil (agō) hominēs male agere discunt. Col.11.1.26*
人は何もしないことによって、悪く行うことを (悪い行いを) 学ぶ。
5. *(Scrībō) rectē sapere est et principium et fons. Hor.A.P.309*
知恵を持つことは、正しく書くことの始まりであり、源泉である。
6. *Gutta cavat lapidem nōn vī sed saepe (cadō).*
雨粒は力によらず繰り返し落下することによって石に穴を開ける。
7. *Ea gens propter magnitudinem sonitūs sensū (audiō) caret. Cic.Rep. 6.19*
その民族は音の大きさのために聞くことの感覚 (聴覚) を欠いている。

2 絶対的奪格

奪格に置かれた名詞 A とそれを修飾する語句 B（現在分詞、完了分詞、形容詞など）との組み合わせで絶対的奪格と呼ばれる表現を作ります。A と B は主語と述語の関係に置かれます。

確認問題 括弧内の語を適切な形に直しなさい。

1. Caesar, (accipiō) litterīs, nuntium mittit. Caes.B.G.5.46
カエサルは手紙を受け取ると使者を送る。
2. Quid rīdēs? (Mūtō) nōmine dē tē fābula narrātur. Hor.Sat.1.1.69-70
なぜおまえは笑うのか。名前が変えられる（名前を変える）と、その話はおまえについて語られている。
3. Nātūrā (dux) numquam aberrābimus.
自然を導き手にすれば、我々は決してさまようことがないだろう。
4. Quibus rēbus (cognoscō) Caesar mātūrandum sibi censuit. Caes.B.G.7.56
これらのことが知られるとカエサルは自分は急ぐべきであると判断した。
5. Maximās vērō virtūtēs jacēre omnīs necesse est voluptāte (dominō). Cic.Fin.2.117
だが快樂が支配する時、主立った美德のすべてが地に伏すのは必然である。

注

1. accipiō の完了分詞は acceptus, -a, -um。
2. Mūtō の完了分詞は mūtātus, -a, -um。
3. 第3変化名詞 dux の単数・属格は ducis。
4. Quibus は代名詞的に用いられている。cognoscō の完了分詞は cognitus, -a, -um。
5. necesse est の主語は不定法句(対格不定法)。意味上の主語は Maximās ... virtūtēs ... omnīs (女性・複数・対格)。dominō の現在分詞は dominans。

解答

1. acceptīs 2. Mūtātō 3. duce 4. cognitīs 5. dominante

練習問題 79

解答 p.322

括弧内の語を適切な形に直しなさい。

1. (Recipiō) dulce mihi furere est amīcō. Hor.Carm.2.7.28
友を迎え羽目を外すのは私にとって楽しいことだ。
2. Hīc Helenus (caedō) p̄rimum dē mōre juvencīs exōrat p̄acem dīvum.
Verg.Aen.3.369-370
ここでヘレヌスは、まず慣習に従って若牛を屠った後、神々の加護を祈り訴える。
3. Cāritāte enim benevolentīaque (tollō) omnis est ā vītā sublāta
jūcunditās. Cic.Amic.102
というのも、愛情や親切が失われたなら、愛すべきものがことごとく人生から失われてしまうからだ。
4. Nātus est Augustus M. Tulliō Cicerōne C. Antōniō (consul). Suet.
Aug.5
アウグストゥスはマルクス・トゥッリウス・キケローとガーイウス・アントーニウスが執政官の時（紀元前63年）に生まれた。
5. Nōn vōbīs (rex) Latīnō dīvitis ūber agrī Trōjaeve opulentia dēerit.
Verg.Aen.7.261-262
このラティーンヌスが王であるかぎり、汝らに肥えた田畑の豊穰（な実り）、あるいはトロイヤの富も欠けることはないだろう。

注

1. 括弧内の語は amīcō とともに絶対的奪格を作る。Recipiō の完了分詞は Receptus, -a, -um. dulce は文の補語、主語は不定法 furere。
2. 括弧内の語は juvencīs とともに絶対的奪格を作る。caedō の完了分詞は caesus, -a, -um. dīvum は deōrum の別形（複数・属格）。
3. tollō の完了分詞は sublātus, -a, -um. Cāritāte と benevolentia(que) はひとまとまりの概念としてとらえられるため単数扱い。
4. 括弧内の語は複数・奪格になる。2人の執政官名の奪格とともに絶対的